

[様式 18]

令和 3 年 1 0 月 2 9 日

総 務 大 臣 殿

広島県三原市宮沖五丁目 8 番 1 5 号
株式会社 FM みはら
代表取締役 後 藤 和 之 印

放送番組審議会議事録の提出について

標記について、放送法施行令第 8 条第 3 号の規定により、下記の書類を添えて提出します。

番組審議会議事録（第 1 9 回、令和 3 年 1 0 月 2 8 日開催）

[様式 18]

◀ 別紙 ▶

1. 開催年月日 令和3年10月28日
2. 開催場所 三原駅前キオラスクエア内 サテラス
3. 委員出席
委員総数 6名
出席委員数 5名

オブザーバー 1名

放送事業者出席者
1名
4. 議題
番組審議・ご要望について
5. 議事の概要
(1) 開会宣言
放送事業者からの開会宣言

(2) 局からの現状報告（今年度の緊急臨時放送について）

事務局より座長に進行をお願いする。
座長は事務局に今年度の緊急臨時放送について説明を求めた。
事務局は以下の通り説明を行った。

事務局「新型コロナウイルス対応状況について。集中対策は10月14日で終了し、15日からスタジオに1人または2人のゲスト入室可に変更。サテラスでの公開放送も来月からの再開を予定している。
続いて今年の緊急臨時放送について。防災士の方に参加してもらっている災害情報ネットワーク。臨時放送においても災害情報ネットワークメンバーから情報を出してもらった。今年からメンバー間の情報収集の方法を、メールからスマートフォンのアプリ Line に変更したことにより、メッセージだけでなく、写真や動画の情報ももらうことができた。さらに今年からはこの災害情報ネットワークに三原テレビ放送㈱も参加。このことにより集まった映像については三原テレビ放送㈱が放送にのせる事ができた。
今年は深夜に災害状況が変化することが多かった。深夜の放送はロボットアナウンサーを活用し、音声メッセージを作成。情報が変わるまでは音声メッセージをループで放送。また、三原市危機管理監が緊急割込み放送を録音して、ロボットアナウンサーによる音声メッセージの準備ができるまで、放送した。」

[様式 18]

A 氏「緊急放送のロボットアナウンサーの音声更新作業は局長がその都度打ち込んでいるのか。」

事務局「今のところ夜中に発信する場合は局長が対応するようにしている。」

A 氏「パーソナリティが自宅で打ち込んだりできないのか。」

事務局「技術的にはできる。しかし、スタジオ以外からの発信は放送上のセキュリティを考え、パーソナリティが自宅から発信できるようにしていない。」

B 氏「夜中に豪雨などが起これば移動も難しい。メインは局長が対応をするにしても、サブでもう1人対応できる状態を考えておくことも必要。」

事務局「朝6時になればパーソナリティが来てくれる。それまで緊急の状態だということをリスナーに伝えることが必要。ラジオをつけたら今の状況が分かる放送を現在は行っている。」

その他、別段の異議はなかった。

6. 審議内容

第一号議案「番組審議について」番組名「テツロー&むうの夢 100%」
座長は「テツロー&むうの夢 100%」について事務局に説明を求めた。

事務局「FM みはら唯一のスポーツ番組である。FM みはらパーソナリティ増田睦美、三原出身でプロトライアスリート 福元テツローの二人が番組の進行をしている。毎月2回放送。福元氏は毎回スタジオに来るのではない。1回はスタジオから、もう1回は福山の自宅などからリモートによる出演。リモート出演の時の音は周りの環境によってずいぶん変わる。」

A 氏「アメリカのレース会場からの出演だったかと思うが、大会中の音声などはなかったのか。」

事務局「トライアスロンのレースの様子については福元氏の奥様がYouTubeで流した。それを協力者の皆さんが見られるように設定をしていたようだ。YouTubeのライブ放送ならではのサービス。ラジオにおいてはライブのレースの音声を頂けることではなかった。」

B 氏「アメリカからの声にもかかわらず音質が本当に良かった。海外とつながっているだけで、すごいと思う。」

A 氏「ネットの環境で音質など変わるのか。」

[様式 18]

事務局 「Zoom の場合、場所など環境によって音質に差が出る。また、スマートフォンも場所によって音が変わる。そのためゲストには出来るだけ固定電話で出演をしてもらおうよう依頼をしている。今回のアメリカからの放送は Zoom を使用した。」

B 氏 「タイムラグもなく良かった。」

事務局 「現在、FM みはらではゲスト出演が難しくなっている。ただ、Zoom などを使えばどこからでもゲスト出演してもらえる。もっと技術的に安定することができれば、三原市出身で他県にいる方にもラジオ出演してもらえるようになる。」

C 氏 「今回の番組は感銘を受けた。パラリンピックのこともあるし、良い企画だったと思う。」

事務局 「この番組は今年の春から放送している。本当は半年後にオリンピックが開催することを念頭に色々な企画を準備していた。しかし新型コロナウイルス感染拡大によりオリンピック開催が 1 年伸びたため、企画自体一部変更した。しかし、それでも当初から取り上げたいと考えていたパラリンピックや障害者スポーツに関わる方を取り上げられた。これは良かったと思う。」

A 氏 「番組の企画はパーソナリティ 2 人が行っているのか？」

事務局 「企画はパーソナリティ 2 人と技術担当者が行っている。ゲスト探しも同時に行っている。」

事務局 「これからは三原のスポーツ選手や学生選手をもっと取り上げていきたい。今まではコロナ禍でゲストに呼ぶのが難しかったが、これからはチャンスかと考えている。特に学生にはスタジオに来て話してもらえたらと思う。」

B 氏 「他の番組でも番宣などしたらどうか。」

事務局 「やるべきだと思う。福元テツローさんなど、番組前に SNS で告知している。これからは番組が変わる時に前の番組が次の番組を紹介するなど徹底をしていきたいと考えている。」

D 氏 「子どもたちが賞をとったり、市長のところへ行ったりしているがそのような時は取材しているのか。」

事務局 「市役所で行われることについてはできるだけ行くようにしている。できるだけ声を録って、流すことを心がけている。今後も子供たちの声を聴くことができる企画を取り入れていきたい。」

[様式 18]

別段の異議はなく承認された。
議長は、第二号議案「ご要望」について、委員に意見を求めた。

D 氏「もっと子供達の声がラジオから聞けたら良いと思う。ICT活用で授業も変わってきているので、先生や子どもの声を聴いてもらえたら思う。」

事務局「児童、生徒をラジオに出すことは積極的に取り組んでいきたい。」

F 氏「アンケート結果で、40～60代のリスナーが多いことが分かるが、FMみはらは全年齢に受け入れてもらえるものを作ろうと考えているのか。」

事務局「もちろんすべての世代に受け入れてもらえるようと考えている。しかし、ラジオを聴く習慣を持っている人は40代以上に多い。まずはこの40代以上の方の生活にFMみはらを取り込んでもらえるように思い企画をしている。」

他、別段の異議はなかったので終了した。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日
引き続き、次回の審議会に提案することとする。

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表
公表の方法： 事務所への備置き ホームページでの公開
公表の内容： 議題、議事の概要および審議内容
公表年月日： 令和3年10月28日

9. その他参考事項
次回、番組審議会日程 令和4年1月27日木曜日16時

以上